

Glocal Tenri



10

月刊 グローカル天理 Monthly Bulletin Vol.17 No.10 October 2016

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University

CONTENTS

- ・ 巻頭言
「相模原殺傷事件」に思う
／高見宇造..... 1
- ・ 天理教教理史断章 (109)
北野文書①「おさしづ」の写し翻刻
／安井幹夫..... 2
- ・ 『教祖伝』探究 (28)
よふぼくの目標数
／深谷忠一..... 3
- ・ 「おふでさき」天理言語学試論～「こと」
的世界観への未来像～ (30)
第4章 南方熊楠「萃点の思想」と「事
の字」⑤
／井上昭夫..... 4
- ・ 「元初まりの話」に登場する動物たち (16)
「皮つなぎの道具」としての「かめ」②
／佐藤孝則..... 5
- ・ 「おふでさき」の標石の用法 (14)
「そうじ」について⑤
／深谷耕治..... 6
- ・ 「おさしづ」語句の探求 (20)
第2巻における「おさしづ」の種類と「道」
の件数
／澤井治郎..... 7
- ・ ライシテと天理教のフランス布教 (8)
ライシテの歴史⑤
／藤原理人..... 8
- ・ 新宗教のブラジル伝道 (42)
救済の多様性 PL 教団①
／山田政信..... 9
- ・ 地域福祉を拓く ー新たな寄付文化の創造
ー (22)
コミュニティオーガニゼーションの「合
同財政」①
／渡辺一城..... 10
- ・ 遺跡からのメッセージ (16)
イスラエルの遺跡調査② 初期シナゴ
グの建築遺構、発見！
／桑原久男..... 11
- ・ 天理参考館から (7)
第78回企画展「東北地方の玩具たちー東
日本大震災を忘れないー」
／幡鎌真理..... 12
- ・ ヴァチカン便り (22)
マザー・テレサは聖人に
／山口英雄..... 13
- ・ English Summary..... 14
- ・ おやさと研究所ニュース..... 15
- ヨーロッパ宗教学会 (2016) に参加 (堀内み
どり) / イーロン大学「宗教・文化・社会研
究センター」主催の国際研究会に参加 (堀内
みどり) / 第75回日本宗教学会学術大会に参
加 / 平成28年度「公開教学講座」のご案内

巻頭言

「相模原殺傷事件」に思う

おやさと研究所長 高見宇造 Uzo Takami

この夏起こった相模原殺傷事件について様々な報道がなされていますが、一月以上経った今でも無力感と深い悲しみの中にいる方は大勢おられると思います。私も亡くなられた方々の霊様を少しでもお慰めすることが出来ればと思い先日、津久井やまゆり園を訪れ、献花と共に黙祷を捧げて来ました。新宿から電車とバスを乗り継いで3時間ほどの山あいには園があります。周囲はのどかな自然の中にあり、こんなところで凄惨な事件が起きたことに一層の驚きを感じました。亡くなられた方々はいずれも重度の障害がありましたが、さぞかし怖かったことでしょう。謹んで哀悼とお見舞いを申し上げます。

折しも専門学校で保育を学ぶ娘が、知的障害児者施設で実習をしている最中で、施設の利用者さんはどうしているかと尋ねますと「みんな、今度は自分が殺される」と口々に叫んでおられたとのことでした。パニック状態であったのでしょうか。知的障害の利用者さんに与えた影響は計り知れないものがあると思います。

知的障害者やその家族らでつくる全国組織「全国手をつなぐ育成会連合会」が次のようなメッセージを公表しています。

「障害のある人もない人も、私たちは一人ひとりが大切な存在です。障害があるからといって誰かに傷つけられたりすることは、あつてはなりません。もし誰かが『障害者はいなくなればいい』なんて言っても、私たち家族は全力でみなさんのことを守ります。安心して、堂々と生きてください」というものです。一人ひとりの心に届くことを切に願います。

では彼はどのようにしてこのような犯罪に及んでしまったのでしょうか。この点は色々に識者が分析をしていますが、本当に「障害者はいなくなればいい」と考えたのでしょうか。「意思疎通できない人を刺した」と

話しているとのことですが、確かに重度の知的障害児者は意思疎通が難しいことでもあります。彼にとってはどこまでも不可解な存在としてしか映らなかったのでしょうか。ある識者が述べていたように、彼は施設に勤めるようになって初めて知的障害者、そして支援するとはどういうことかについて真剣に向かい合っただけで済んだのか、それではあまりにも不幸なことと言わざるを得ません。これから家庭や学校で、また地域社会で障害について学ぶ、福祉について学ぶ、そして何より多様な人間の有様、生き方を学ぶ、そうしたことをもっと真剣に考えていく必要があるのではないかと私は思いました。

ところで、やまゆり園に伺うその前日、私は千葉県在住のある教会長ご夫妻を訪ねました。この方は地域に住む知的障害児者の学習、就労支援をしておられます。丁度、教会に伺ったときは子供たちと向き合っただけで、その様子を拝見させていただきました。実に和やかに語りかけられるように接しておられました。その姿に大変感銘を受けました。またそうした教会の活動を近所の方々も理解をして見守っておられ、何かしら一体感のようなものが感じられたのです。子供たちを見つめる地域の目線はとても温かいものでした。その翌日に山あいにある園を訪ねたとき、この施設の利用者さんが地域の中でもっと大勢の人との交わりの中で生活することが出来れば、それがノーマライゼーションかもしれませんが、もしかすればこの事件の被害者も加害者も生まれなかったかもしれない。園職員の皆さんが献身的な支援に勤めておられたことは報道の通りですが、実際に園の建つ地に足を運んでそんなことを感じました。私たちに何が出来るだろうか。これは大きな課題です。